

めあて

文章を正しく読み取ろう

(これまでのあらすじ)

ハンターになれば、ゾウを見られると思ったヤミーナは、ハンターになろうと思う。ある日ヤミーナは、①ハンターのまねことをしながら森へ入るが、まいこになってしまう。ゾウの森の中でぐうぜん、ハンターに母親を殺された小さなゾウの子ともに出会う。

何が起こったのか分かった。小さなゾウの子ともが、たおれた母さんをゆり起そうとけんめいになっていたのだ。ハンターにやられたのだ。ヤミーナと同じように、ゾウの子も、おびえてとほうにくれていた。

②「いい子ね。泣かないのよ。」 ヤミーナはささやいた。それから、首をかしげて、周りの音を聞いた。ゾウの群れがまだ近くにいた。それがないから、でも、はっきりなしにブンブンいう虫の音以外は何も聞こえない。

こんな赤ちゃんゾウが一人では生きていけないことを、ヤミーナは知っていた。この子をいっしょに連れていけばよかったら、とちゅうで群れに出会えるかもしれない。けれど、赤ちゃんゾウは、こわがって動けない。

③「だいたい、あだしはハンターじゃないのよ。」 ヤミーナはやさしく言い聞かせた。長い間話しかけていると、やっとゾウの子は落ち着いて、ヤミーナに鼻をすり寄せるようになった。

ヤミーナは立ち上がって、少し歩いてみた。ゾウもふらふらしながらついてきた。はげしい日差しがかけ、やがて雨になった。冷たい雨にぬれると、ゾウたちは、あらしの中を進んでいった。すべったりつまずいたりしながら、ヤミーナ

と、おじいちゃんはいつかヤミーナに言った。「午後、草原を横切る動物の群れについてお行き。川に着くから。川向こうがわしらの村だよ。」

草原を横切っていくシマウマの群れに出会えたのは、それからすいぶん後のことだった。焼けつくような午後の間じゅう、ヤミーナとゾウは、川を目指す動物たちといっしょに歩いた。

ヤミーナとゾウはまた歩き始めた。が、すぐにゾウの歩みがのろくなった。④「もうちびとがんぼつて。」 ヤミーナはたのむように言った。でも、小さなゾウはすっかりつかれ切っていた。ヤミーナもいっしょにすわりこんで、母さんのことを考えた。今ここで、母さんをよべたら、どんなにいいだろう。村ではみんながヤミーナのことを心配して、もうすぐさがしに来てくれるにちがいない。ゾウが鼻を鳴らした。ヤミーナはそっとゾウをなでた。この子にはもう、母さんがいないのだ。

平成十九年度小学校「基礎・基本」定着度調査から

一 主人公はだれですか。

二 主人公は森の中で何に出会いましたか。

三 主人公はどこを目指していましたか。

四 下線部①から分かるヤミーナの性格や人がらで、正しいものを選びましょう。

- ア しんちような子ども
- イ 明るい子ども
- ウ 行動力のある子ども
- エ おだやかな子ども
- オ 元気
- カ やさしい
- ク 負けずぎらい
- コ おおらか

五 下線部②③④から分かるヤミーナの性格や人がらで、正しいものを選びましょう。

振り返り	四	一	
	五	二	
		三	